第６学年１組　音楽科学習指導案

平成２８年９月９日（金）第１校時
９月１６日（金）第３校時
児童数　男子１６名　女子１５名　計３１名
指　導　者　　増　田　　和　江

１　題材名　いろいろな音のひびきを味わおう

２　題材について

（１）学習指導要領との関係

本題材は、Ａ　表現「（２）器楽　ア　範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。イ　曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。ウ　楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。エ　各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。（３）音楽づくり　イ　音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。」Ｂ　鑑賞「ア　曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。イ　音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。ウ　楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」に関係している。

本題材は、パートの役割や楽器の特徴を生かして全体の響きを味わって演奏したり、楽器の組み合せから生まれる響きの美しさを味わって聴いたりすることや、楽器の音色やリズム、音楽の仕組みを生かして音楽をつくったり演奏することをねらいとしている。

（２）題材に関わる児童の実態（省略）

（３）本題材における指導

「ラバース コンチェルト」では、役割の異なるパートの音が重なり合う響きを感じ取って、楽器の特徴を生かした合奏をする。まず、旋律の特徴やパートの役割を意識させ、各パートにふさわしい楽器を選ばせる。そして、楽器の音色が重なり合う響きや全体の音量のバランスなどを確かめながら自分たちの思いや意図をもって表現できるようにする。

「木星」の鑑賞では、曲想の変化から楽曲の構成を理解させ、曲想の変化と演奏されている楽器との関係について聴き取らせる。そして、オーケストラの豊かな響きが変化していくよさや面白さを味わって聴けるようにする。

リズムアンサンブルづくりでは、つくったリズムの例やアンサンブルの例を演奏させながら、楽器の音色や組み合わせたときの響きを感じ取らせ、音楽の仕組みについて理解できるようにする。始めに、アンサンブルづくりに関する十分な音楽的情報を児童に与えることで、その後のグループ活動に主体的に取り組めるようにする。また、自分のリズムづくりをその後の宿題にすることで、学習したことを基に時間をかけてじっくりと考えられるようにする。グループでの活動は、前時に学習した楽器の音色や

音楽の仕組みを生かしたリズムアンサンブルづくりができるよう、ヒントになる板書やワークシートを用意する。

本題材では、合奏や音楽づくりの際に、児童が話し合ったり音を出して試しながら演奏したりする時間を十分確保する。そして、音楽学習に主体的に取り組む児童を育てていきたい。

３　題材の目標

（１）楽器の響きに興味・関心をもち、聴いたり演奏したり音楽づくりをしたりする学習に主体的に取り組もうとしている。

（２）楽器の音色や旋律の特徴を感じ取ってどのように演奏するか、また、どのような音楽にしていくかについて自分の思いや意図をもっている。

（３）楽器の音色やリズム、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくったり演奏したりする。

（４）楽器の組み合わせから生まれる響きの美しさを味わって聴く。

４　教材について

・「ラバース コンチェルト」（器楽）

クリスティアン ペツォルト作曲の「メヌエット」を、デニーランデルとサンデーリンザーがジャズ風にアレンジしたもの。四つのパートに編曲されており、各パートの楽器を自由に選択できるようになっている。各パートの役割を考え、児童が楽器の組み合わせを考えながら合奏することができる。

・「木星」（鑑賞）

グスターヴ ホルストの作品。全７曲からなる管弦楽組曲「惑星」の第４曲。音色の異なる様々な楽器が重なり合うことで生まれるオーケストラの豊かな響きを味わって聴くことができる。

・リズムをつくってアンサンブル（音楽づくり）

楽器の材質の違いによる音色を感じ取り、それに合う２小節のリズムをつくって、響きのよい組み合わせを考えながら、反復や問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルをつくる教材。

５　本題材で主に取り扱う〔共通事項〕と学習活動の関わり

〔共通事項〕ア（ア）	音色	リズム	音の重なり
〔共通事項〕ア（イ）		反復・問いと答え・変化・音楽の縦と横の関係	
〔共通事項〕イ			
具体的な学習活動	・各パートの役割にふさわしい音色の楽器を選ぶ。 ・オーケストラの楽器のいろいろな音色を味わって聴く。	・短いまとまりのあるリズムをつくる。 ・つくったリズムを組み合わせる。	・楽器の音色が重なり合う響きを聴き合いながら合奏する。 ・旋律の反復や変化、音色の変化などから楽曲の構造への理解を深める。

6　題材の評価規準・評価計画（８時間扱い）

	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準 時	①楽器の響きに興味・関心をもち、範奏を聴いて演奏する学習に主体的に取り組んでいる。 ②オーケストラの響きに興味・関心をもち、楽器の響きや楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ③楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組んでいる。	①楽器の音色や旋律の特徴を聴き取りその重なりによって生まれる響きのよさを感じ取りながら、パートの役割を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。 ②楽器の音色やリズムを聴き取り、その組み合わせによる響きの面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を使って楽器の特徴を生かしてどのような音楽にするかについて見通しをもっている。	①楽器の音色に気を付け、それらが重なり合う響きを聴き合いながら、パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏している。 ②楽器の特徴を生かしたリズムをつくり、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくっている。	①楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の違いを聴き取り、それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、楽曲の構造を理解したり楽曲全体にわたり曲想を味わったりして聴いている。 ②曲想とその変化の特徴、楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の違いなどとの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やオーケストラの響きのよさを理解して聴いている。
1 2 3 4	① ①	 ① ①	 ① 	
5 6	②			① ②
7 8	 ③	②	 ②	

7　指導と評価の計画（８時間扱い）

時	○学習内容　　・主な学習活動	○指導上の留意点　☆評価規準（評価方法）
〈第１次のねらい〉　パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏する。		
1 2 3 4 	○「ラバース コンチェルト」の範奏を聴き、楽曲の特徴をつかむ。 ・範奏を聴く。 ・パートの役割を知る。 ・主旋律をリコーダーで演奏する。 ・グループに分かれ、パートを分担し、自分のパートの練習をする。 ○パートの役割について考え、全体のバランスを工夫して演奏する。 ・主旋律を中心とした合奏にするための楽器の組み合わせやバランスについて話し合いながら、練習をする。 ○グループごとに発表し、響きの違いを楽しんで聴き合う。 ・話し合ったことを表現できるように合奏する。 ・グループごとに自分たちの思いや意図を生かして演奏を発表する。	○楽器の音色、パートの役割などに観点を絞って聴くことにより、演奏への見通しがもてるようにする。 ☆楽器の響きに興味・関心をもち、範奏を聴いて演奏する学習に主体的に取り組んでいる。 ア①（発言内容・行動観察） ☆楽器の音色に気を付け、それらが重なり合う響きを聴き合いながら、パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏している。ウ①（演奏の聴取） ○聴き役を決めて、互いに聴き合いながら全体のバランスを考え、主旋律が生きるような演奏になっているか確かめながら演奏させる。 ☆楽器の音色や旋律の特徴を聴き取り、その重なりによって生まれる響きのよさを感じ取りながらパートの役割を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。イ①（発言内容・演奏の聴取） ○互いの思いや意図を伝え合って、響きのよさが味わえるようにする。
〈第２次のねらい〉　オーケストラの響きを味わいながら聴く。		
1 2 	○オーケストラの楽器のいろいろな音色を味わうとともに、旋律の反復や音色の変化などから楽曲の構造に気付いて聴く。 ・アとイの部分の変化を感じ取る。 ・アの３つの主な旋律を聴き取る。 ○曲想の移り変わり、オーケストラの豊かな響きが変化していくよさや面白さを味わって聴く。 ・アの３つの部分の楽器の響きや重なり、拍子の変化などに気を付けて聴く。 ・気付いたことや感じ取ったことをワークシートに記入する。 ・「木星」の紹介文を書く。	○手を挙げさせるなどして、曲想の変化を確かめながら聴けるようにする。 ☆楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の違いを聴き取り、それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、楽曲の構造を理解したり楽曲全体にわたり曲想を味わったりして聴いている。 エ①（行動観察・ワークシート） ☆オーケストラの響きに興味・関心をもち、楽器の響きや楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。エ①（行動観察・ワークシート） ○旋律が反復されるときに楽器の音色がどのように変化しているのかに気を付けて聴かせる。 ☆曲想とその変化の特徴、楽器の音色、旋律の反復や変化、拍子の違いなどとのかかわり合いから、

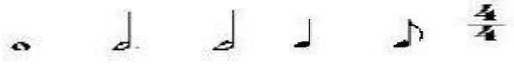
		想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やオーケストラの響きのよさを理解して聴いている。 エ②（行動観察・ワークシート）
〈第３次のねらい〉打楽器の音色や音楽のしくみを生かして、リズムアンサンブルをつくる。		
1	○様々な打楽器でアンサンブル例を演奏して音色の特徴をつかみ、音楽づくりの見通しをもつ。 ・教科書のリズム例を演奏しながら、皮、木、金属の打楽器の特徴をワークシートに記入する。 ・グループ（３人）で組み合わせる楽器を選ぶ。 ・選んだ楽器でアンサンブル例を演奏し、くり返し方や重ね方の工夫を参考にする。 ・自分のリズムをつくる。（宿題）	・できるだけ皮、木、金属の打楽器のすべての楽器にふれられるようにする。 ☆楽器の音色やリズムを聴き取り、その組み合せによる響きの面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を使って楽器の特徴を生かしてどのような音楽にするかについて見通しをもっている。 イ②（行動観察・ワークシート・演奏の聴取）
2	○つくったリズムを組み合わせて、反復や問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしながらリズムアンサンブルをつくる。 ・前時で話し合ったり演奏したりしたことを基に、自分たちのリズムアンサンブルをつくる。 ・つくったリズムアンサンブルを聴き合い、よさを伝え合う。	・宿題にすることで、時間をかけてじっくりと考えてつくれるようにする。 ☆楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組んでいる。 ア③ （行動観察・発言） ・実際に音を出して演奏しながら工夫できるようにする。 ☆楽器の特徴を生かしたリズムをつくり、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。 ウ②（演奏の聴取）

８　本時の学習指導

（１）目標　様々な打楽器でアンサンブル例を演奏して音色の特徴をつかみ、音楽づくりの見通しをもつ。

（２）本時で扱う〔共通事項〕：ア（ア）　音色、リズム、音の重なり

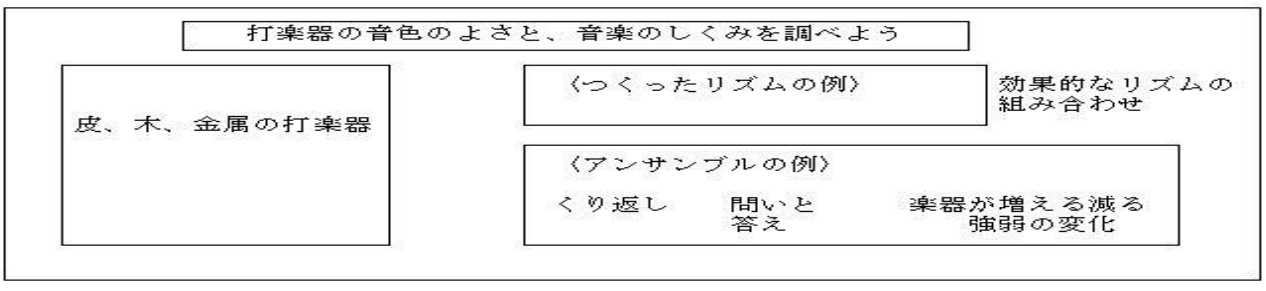
ア（イ）　反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係

イ 

（3）展開（7/8時）

学習内容　・学習活動	○指導上の留意点　☆評価規準（評価方法）
打楽器の音色のよさと、音楽のしくみを調べよう	
1　教科書のリズム例をいろいろな打楽器で演奏する。 ・三つのリズムを練習する。	○リズムカードの組合せで簡単につくられていることを理解させる。 ○できるだけ皮、木、金属の打楽器のすべての楽器にふれられるようにする。
・皮、木、金属の打楽器で教科書のリズム例を演奏する。 ・打楽器の音色の特徴をワークシートに記入する。	○楽器名を入れた簡単に記入できるワークシートを用意し、音を出す活動の時間を確保できるようにする。
2　グループ（3人）で組み合わせる楽器を選び、アンサンブル例を演奏する。 ・何の楽器を組み合わせるか話し合う。	○同じ素材や違う素材の組合せで演奏させ、響きの違いを感じ取れるようにする。 ○組み合わさったときにそれぞれの楽器の音色が生かされているか、音を出して確かめながら話し合わせる。 ○反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を実際の演奏で理解し、自分たちのリズムアンサンブルづくりに生かせるようにする。
・選んだ楽器でアンサンブル例を演奏し、くり返し方や重ね方の工夫を参考にする。	○気付いたことやわかったことをアンサンブル例の楽譜に記入させる。 ☆楽器の音色やリズムを聴き取り、その組み合わせによる響きの面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を使って楽器の特徴を生かしてどのような音楽にするかについて見通しをもっている。 イ②（行動観察・ワークシート・演奏の聴取）
3　自分のリズムをつくる。（宿題） ・4分の4拍子で2小節のリズムをつくる。	○選んだ楽器の音色に合うようなリズムを考えるよう助言する。 ○宿題にすることで、時間をかけてじっくりと考えてつくれるようにする。

（4）板書計画



9　本時の学習指導

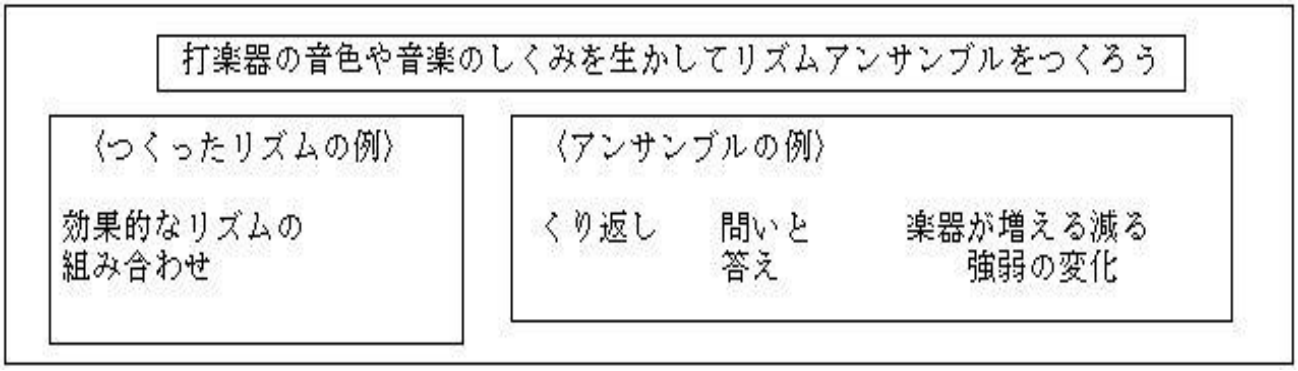
（1）目標　つくったリズムを組み合わせて、反復や問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしながらリズムアンサンブルをつくる。

（2）本時で扱う〔共通事項〕：ア（ア）　音色、リズム、音の重なり
ア（イ）　反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係

（3）展開（8/8時）

学習内容　・学習活動	○指導上の留意点　☆評価規準（評価方法）
打楽器の音色や音楽のしくみを生かしてリズムアンサンブルをつくろう	
1　つくったリズムを聴き合う。 ・自分のリズムを演奏しグループの友だちと聴き合う。 ・3人のリズムを重ねて演奏する。	○選んだ楽器に合ったリズムになっているか聴き合う。 ○同じリズムになってしまったり、楽器の特徴に合わない場合は合わせたときに効果的なリズムになるように変えてよいことを助言する。
2　つくったリズムを組み合わせて、反復や問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしながらリズムアンサンブルをつくる。	○前時にアンサンブルの例の演奏をして参考にしたいと思ったことを想起させ、自分たちのアンサンブルづくりに生かせるようにする。 ○実際に音を出して演奏しながら工夫できるようにする。
・前時で話し合ったり演奏したりしたことを基に、自分たちのリズムアンサンブルをつくる。 ・つくったリズムアンサンブルの練習をする。	○一人一人がアイデアを出し合い、いろいろと試しながらつくれるようにする。 ☆楽器の音色やリズムの特徴に興味・関心をもち、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組んでいる。 ア③ （行動観察・発言）
3　つくったリズムアンサンブルを聴き合い、よさを伝え合う。 ・つくったリズムアンサンブルを発表する。 ・他のグループのリズムアンサンブルのよかったところを発表する。	☆楽器の特徴を生かしたリズムをつくり、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。 ウ②（演奏の聴取） ○兄弟グループで互いに聴き合い、アドバイスし合うことで、自分たちの意図や思いが伝わるような演奏になるようにする。 ○組み合わさったときにそれぞれの楽器の音色が生かされているかや、リズムの組合せは効果的か、音楽のしくみが生かされているかに観点を置いて聴くことで、よさを感じ取れるようにする。

（４）板書計画


打楽器の音色や音楽のしくみを生かしてリズムアンサンブルをつくろう
〈つくったリズムの例〉
効果的なリズムの
組み合わせ
〈アンサンブルの例〉
くり返し
問いと
答え
楽器が増える減る
強弱の変化